

風光



東海地本 第25回定期大会



大型の台風が接近する中、開催も一時危ぶまれた第25回定期大会でした。しかし、組合員は雨にも負けず、風にも負けず、代議員、オブザーバー、来賓の方々を含め、130人以上の参加がありました。今年には近年最多となる29本の発言がありました。支部・分会・専門部など、それぞれが自らの活動を振り返ることで、地本の方針や総括を補強し、深めることができました。また、震災に絡んだ発言も多く、福保労としても、引き続き支援が必要ということが明らかにになりました。

〈大会発言集〉

春闘統一要求議論について すずかけ分会 榎谷代議員

給料の財源を作るバザーで、給料保障は矛盾がある。そういう意味で一致できない思いで来た。心情的にできない思いには寄り添わなくてはいけない。「正しい、正しくない」を導くのではなく、討論をいかに積み上げるかどうか。民主主義の討論の仕方を組合員個々の思いに寄り添いながら進めてほしい。

〈大会発言集〉

名市大さくらんぼ分会 宮地代議員

学内保育所と病院内保育所が統一され、太陽があたらず園庭もない建物の一角で、給食もトルトを温めて出す状況だった。4月から新園舎に移る事になり、保育園として当り前の生活ができるようになった。

しかし、保育現場を知らない人の設計で、なかなか意見を聞き入れてもらえなかった。問題を整理し、職員会・父母会・教職員組合と手をつなぎながら

んばっていききたい。

地本役員選出について

荒畑もちの木保育室分会 鈴木代議員
急遽分会に執行委員長を送りだしてほしいという要請が来た。来年度、職場として不安定な状態になる事がわかっていたので、すぐに「はい」とは言えなかった。職場の状況を涙ながらに語り、お互いに変だねと話し合い、送り出すことにした。

大事な話は前もって決めていけるようにしてほしい。ここに来たみなさんの持ち帰りの課題として、地本が発展していく為に考えてほしい。



職場闘争のとりくみ

ゆたか支部 菅本代議員

6年ほど前から制度の改善が一気に進む。給与表の改善で給料が下げられてきている。組合では一貫して給与上限30万円を要求し、4月に実現。定年退職も60歳になった年度末までにすることができた。

今後、非正規の労働条件が未整備なので組織化を進め、改善していききたい。

要求実現から秋闘に

要求闘争で、パートの時給10円アップ、プールの組み立て・運動会準備が業務として認められる。保育上、必要なプールの組み立てや運動会準備は「仕事」として、要求書を提出。団交には至らず実現した。まだ実現していないものもあり、秋闘でも引き続き要求していく。



分会員の要求を束ねて

みなと福祉分会 相川代議員

3月の団交前にアンケートを取って、未組織の人も含めたみんなの要求を知ることができた。団交では一時金の要求を若い組合員の生活実態から訴えてきた。一定、前進回答だったが、要求額には遠く、継続して要求するか妥結するか、分会長という立場になって悩んだ。いろんな人の気持ちも背負い、あきらめないうつなげていくために今回は妥結することにした。

春闘統一要求と職場討議

かわらまち分会 工藤代議員

くまのまえ保育園建設にむけ、積極的に受けていくことを決め、法人内や分会で話し合った。い

ろんなところで不安や葛藤はあるが、企業参入はさせないというところで決意した。

自分も葛藤しつつ、理念と組合員の状況を議論し合う中で、労働組合としての視点も持ちながら「今が踏ん張りどころ」と話している。「生き残りのための新規事業」だけでなく自身の働きがい、社会的役割もある。

生き生きと働く為に

新瑞福祉会分会 田中オプザーバー

職場で「組合を知る会」を開催し、組合そのものから、勝ち取ってきた権利、体験談など話した。参加した人から「友達がすごい労働条件で働いている。それと比較して、うちの職場は労働条件を作ってきたんだと分かった」という話も聞けた。

理事に現状を知ってもらおうねらいもあり、久しぶりに回交を行った。休日保育の実態を伝え、35%増の賃金を要求した。回交で「勤続30年で3日」のリフレッシュ休暇を勝ち取った。次は35年で5日を目指す。

指定管理に伴う保育所問題

緑市民病院ばんぼこ保育所分会

岩崎代議員

緑市民病院に来年4月から指定管理者制度が導入されるが、ばんぼこはどうかとなるのか、はっ

きりしない。病院局は「純生会の考え方次第」と発言したり、園庭の半分以上を勝手に売ってしまうなど無責任な対応をしている。保育所は継続になるが、純生会は外部委託したい様子で、来年4月からが見えない。どのような方法が子ども、保育士にとっていいのか探っている状況。今後、みなさんにご支援をお願いする事もあ



くお願ひします。

病休者を抱える職場の悩み

けやきの木分会 田中代議員

病休者は出したくないと話してきたが、今2名がメンタルで病休中。「なぜなったのか理由がわからないのがメンタル。」と産業界からも学んだが、どうしたらいいのか分からず、改善できない難しさや、助けてあげられなかったもどかしさがある。新規事業などもあり、ぎりぎりでやってきた中で病休者がでた。病休者もつらいが残された私たちもつらい。つらい時は誰かに話す。そういう仲間になろうねと話をしている。

職場状況と地本役員選出

西部医療センターくさのみ保育所分会

杉山代議員

病院の中にできた新しい保育

所に移転し運営が変わった。契約制度なので委託の時と違い、請求事務が大変。運営が変わっても職員の労働条件を維持できたのは「社会福祉法人の委託」を勝ち取った大きな成果である。今後合同分会を通して働き続けられる職場にしていきたい。

役員選出にあたって、4役を長年やってきた方の代わりを分会から出せるのか悩んだが、本人の意志もあり送りだすことにした。小さな職場で大変さがある中、地本の活動に声を反映させていく事が大切と思った。前向きに地本の役員を送りだしていく話を各分会もしてほしい。時間内で組合の会議をする体制づくりも一緒に考えてほしい。



第

分会活動は負担無く明るく

ぐみの木分会 坂田代議員代読

元無認可共同保育所で、分会員は今年6名加入して今24名。分会活動を重苦しくしない為に工夫をしている。悩みを出し合うとともにOBと一緒にゆる体操にとりくんだり、分会会議にはジュースとお菓子を準備する。新歓企画のBBQもした。病休者が出るなどしんどい事も多いが、分会活動を明るく取り組んでいきたい。

やまびことのつながり作り

中村東支部長 柳原代議員

まずは「やまびこ作業所」がどんなところか知りたくなって自らバザーなどにも遊びに行ったり「手遊びを教えてください」と言われて、一緒にやったりと、コツコツと交流を深めてきた。

中村・安藤代議員：初めは組合とは知らずに顔見知りになっていった。いろいろな相談にもしてもらい、全国障害部会の谷本さんにも来てもらい「労働について」を学ぶことができた。保育と福祉、別々の領域の人たちが、共同で原発や平和のことなど学ぶのは組合あつてのことだと思つた。今後有意義な活動をしていきたい。

平成23年12月に組合を公然化して、ワンマン運営をしていた施設長を解任させ、職場の民主化を勝ち取った。「利用者が安心して利用できる施設にするために」と理事会にも訴え、弁護士、組合と相談しながら進めてきた。利用者の笑顔、職員のやりがいが戻った。ありがとございました。

職場民主化を勝ち取って

作業所えがお分会 片山代議員



新執行部です

よろしくお願ひします

執行委員長	安藤 光枝	荒畑もちの木保育室
副執行委員長	五十川 薫	発達センターちよだ
	薄 美穂子	めいほく保育園
	岡村 悦子	西部医療センターくさのみ保育所
	神田 春美	新瑞福祉会
	寺坂 涉	ひまわり保育園
書記長	藤原 佳子	書記局
書記次長	服部 公一	社会館
執行委員	明石 慶子	ゆたか支部
	麻生 浩平	(社福) さくらんぼの会
	安藤 実花	いりなか保育園
	石濱 文司	めいほく保育園
	石脇のぞみ	みよし保育園
	榎本 淳	名市大病院内保育所
	大矢 知里	そよ風
	小倉 唯	なえしる保育園
	加藤 圭	田代保育園
	角 真菜実	めいほく保育園
	近藤 慶子	そよ風
	坂田 奈緒	けやきの木保育園
	白石 瑞穂	ひまわり保育園
	里中 昌久	社会館
	高橋 優美	どんぐり保育園
	谷中 庸治	めいほく保育園
	角田 琴美	犬山さくら保育園
	外山 華子	社会館
	西山 菜絵	ほしざき保育園
	橋本 真希	新瑞福祉会
	原 彩子	池内わらべ保育園
	原 真弓	みなと福祉会
	矢野 佑佳	なえしる保育園
	山川 莉穂	かわらまち夜間保育園
	山田 純也	あいかわ保育園
		のぎく保育園
会計監査	佐藤 悦弘	めいほく作業所
	長尾 倫子	西部医療センターくさのみ保育所
特別執行委員	仲野 智	
顧問	平出 暁	

支部の組織拡大について

熱中港支部長 山田代議員

熱中港支部の拡大。現状維持が続いていたところで、さくらんぼの会の仲間、えがお分会と増え、百名近い支部となる。

「仲間がいる」と力になる。組織拡大にはエネルギーがいる。生き生きとやりがいを持って仕事ができるようにするために頑張りたい。

障害職場には、震災の支援に行ったり、新規事業を展開したりと、「保育」とは違うバイタリティーがある。保育は6年の経年施設、障害種別は一生の関わりになるからだろうか？仲間

の取り組みから学び、私たちも頑張りたい。

職場再生、元園長の不正問題

かやの木分会 林代議員

元園長は不正受給だけでなく、一人だけが昇給していたなど、今になって明らかになった。理事会からは元園長の退職理由を「自己都合」とするように言われてきたが、これだけの事を隠すわけにはいかないと公にし、新聞報道もされた。福保労の中心で事実が明らかにされ、保問研などの研修先で見知らぬ組合員



から「かやの木がんばってるね」と声をかけられた。分かってもらえることが嬉しい。

議員訪問のとりくみ

みよし分会 岩本代議員

保育の企業参入反対のとりくみで、減税日本の余語議員を親と一緒に訪問した。議員1年目というところで、よく話も聞いてくれたが、今の市への企業参入反対の動きを知らなかった。保育者・保護者双方の立場から話すが、保育園を増やすなら、それなりの負担が必要だとの意見を述べられた。今後ともいろいろな立場の人に広げながら活動

【新執行委員長挨拶】

初めまして。委員長に信任されました荒畑もちの木保育室分会の安藤です。組合員歴18年になります。

この間、支部の執行委員、地本の執行委員をやらせて頂いてきました。その中で感じたことは、組合活動って本当に人間らしい活動だということです。

誰もが望む人間らしい生活、心に余裕が持てるだけの賃金・労働時間、お互いが認め合える職場の人間関係。そういったものが、守られていない現状があります。でもそれは、個人の責任ではなく、制度が不十分のために、起きてくる現象だと思っております。

その現状を、みんなの思いを出し合って変えていこうとするのが、組合活動だと思っています。だから、いくら体が疲れていても、組合に行けば元気がでます。

このたびの大会でも、組合があつてよかつた実感できる発言がたくさんありました。これからは、組合があつてよかつた！仲間がいてよかつた！と思える活動をしていきたいです。

そして今年度は、青年部・臨パ部会の活動の活性化に期待しています。青年部は、青年同士だからこそ、共感しあったり、わからないところを学びあったり、青年の時にしかできない活動があると思います。そういうものを大事にしていきたいと思っております。

また、臨パ部会では、臨職・パートさん同士でしか共感できない様々な悩みを、出し合い支えあう関係づくりを基礎に、組合全体の課題として、取り組んでいきたいと思います。

青年部・臨パ部会へ結集する力が、これからの地本の活動を支える大きな力になると思っています。

“一人はみんなのために、みんなは一人のために”仲間がいるってうれしいね”と実感できる活動を、みんなの思いを大切に受け止めながら、一人ひとりが主人公の活動を作っていきたいと思っております。

一年間よろしくお願ひします。



していきたい。

保育協議会の報告

保育協議会 外山執行委員

金沢で行われた全国の学習交流集會に参加して、専門職としての賃金労働条件づくりの分科会で提案をした。その実行委員長をされていた男性保育士の給与が13万と聞いてビックリ。名古屋には民調があり、一定の賃金が保障されている。これからどう運動をして、守っていくのか意識づくりができた。保育協会は保育の専門分野なので各分会の実態交流と共に運動づくりを考えていきたい。

障害協議会の報告

障害協議会 麻生代議員

障害協議会
活発になった。
分会や職場の状況交流や、障害者ユニオンなど就業・雇用の問題を話している。労働条件の一覧を作り始めているので、秋闘春闘に活用したい。今後重要法案が立て続けに出されるのでしっかりと解釈を進めながら、障害者権利条約を根底に持ちながら議論を進めていく。



震災の事を対岸の火事にしてはいけない。被災地では障害を持った方は避難所にも行けない

ので、出会う事すらできない。大変だねで終わらせてはいけない。私たちの意見も自治体の防災計画に役立ててほしい。

青年部の報告

労働組合講座で一人ひとりが力を出してこれた。出張青年部を2回ほど実施して、組合・青年部のアピールをした。

震災を受けて、青年部としてTシャツ販売もして、月々少しずつ力をつけてきた。



今後楽しいイベントを通じて、青年部としての役割を伝えていく事が課題です。出張青年部もやります。第一月曜が定例なので、ぜひ参加してほしい。

白石代議員：全国の青年部の学習交流集會「なつわか」

学習交流集會「なつわか」 in 京都に8人で参加してきた。初めは何をするのかわからずドキドキしたが、講演、リレートーク、グループ討議をする中で普段話せない事が話せた。若者同士だからこそ話し合いができてよかった。

職対部の報告

あいかわ分会 高島代議員
メンタルでの通院が増えてお

り、職対部ではそのつど対応してきている。組合として、職対部としてどんなことが必要か学習し、労働組合講座でも「姿勢」の学習をしてきた。今年産業医契約を全園で継続できたことは大きい。安全衛生委員会を設置して、機能させているところも多い。今年は健康調査も実施できた。「結果と解決」のレポートを活用してほしい。

療育システム変更の問題点

そよ風分会 今浦代議員

障害児療育が措置から契約になって変わった。父母は障害がある事を認めないと療育センターに入れないことになり、必要な療育が受けられないことが起きる。センターとしては療育だけではなく親支援も大切な役割の一つなのだが早期にできないという矛盾を抱えている。



運営費の日払い方式の問題も大きい。親と共に声をあげて運動作りをしていく必要がある。

地域療育センター建設問題

発達センターちよだ分会 清水代議員

「実現させる会」を親と一緒に取り組んできている。今度5カ所目に「東部療育センター」の計画が持ち上がったが、場所が

猫ヶ洞では通えない子ができる。今でも守山区北部は初診率が低い。訓練や診療ができない状況を何とかしようと、請願署名・議員訪問にとりくんだ。

保護者と一緒に議員訪問をする中で、公明党以外の全政党が紹介議員になってくれたが、「早く建設することが第一」と審議打ち切りになり、猫ヶ洞に決まった。誰もが通いやすい施設づくりのため、また協力してほしい。

障害現場の実態と今後の運動

ゆたか支部 石黒代議員

自立支援法ができてから、利用者には10%の自己負担、給食費の負担が付き、事業所では日払い方式による運営費支給という厳しい状況になった。運営費を賄う為に開所日を増やせば、その分本人負担が増え、工賃も下がってしまう。民主党政権になって期待したがダメだった。でも、自民に戻ったらもっとダメにされる。今のうちに願いを込めて運動をしていく。

震災に関連して、東海地方にも4mの津波が襲えば、名古屋の西半分は水没すると聞く。利用者だけでなく、職員も被災者になれば、他県からの支援が絶対



に必要なようになってくる。防災計画の作成と準備が急務であると、自治体に訴えていく。

震災ボランティアに参加して

西岡執行委員

実際に現地を見たいと思ひ、福保労のデイボラ企画に参加した。内容は遊んだり、話を聞いたり主だった。被災者から、同じ仮設住宅の中でも、申請先が違ったり届く物資が違うという話を聞き、矛盾を感じた。松島の海岸沿いに行くこと平地が続いていたが、そこは元住宅街だった。保育園も壊れたまま手つかずの状態、時計の秒針が津波が来た時間で止まっていた。ボランティアに行つて実態をみると良く分かる。土日のボランティアもある、みんなもいつてほしい。

震災支援について

(社福) さくらんぼの会 服部代議員

東日本大震災がおきてから6ヶ月が経とうとしている。さくらんぼの会としてはJDFFの一員として支援を行っている。9月末までの予定を延長し12月末まで行う予定。

現地も今は以前より改善されているがまだまだ支援は必要。できるところからの支援をしていきたい。

組合学校で学び合おう

仲野代議員

雨宮凜凛さんはインタビュ形式の講演で、どうしたら深い内容を引き出せるか考えてきた。若い路上生活者の問題や新しい運動の仕方など、みなさんにも聞いてもらいたい内容だった。呼びたい人を呼べるのが組合学校で、企画を作り進める中で刺激を受け、6月の社研修会にも参加した。生田さんの貧困問題の話で、路上生活者の差別と子ども会の見回り活動の話を聞いた。金銭だけでなく、関係性の格差の問題を知った。関係性が貧困な方は一人で悩んでいる。事件を起こしてしまう人もいる。こういった問題もみんなて学びたい、力をつけて前を向いていきたい。

労働組合講座に来て下さい

橋本代議員

生き生きと働き続けるためにあるのが労働組合。学びながら、

互いの思いを出し合いながら交流したい。第1回実行委員会が8月に行われ、日頃の仕事の中で抱える悩みを話しあった。元気で働き続ける為には? 福祉ってそもそも何? 権利とは? などなど。利用者の権利と働く自分たちの権利について学び、生き生きと働き続けることで利用者にもかえっていけることが分かった。実行委員募集中です。

原水禁世界大会に参加して

名南支部 佐藤

今年は一人の参加だった。一人で、じっくりと平和の事を考える事はできたが、一緒に行つた仲間と話し合いながら世界大会に行きたかった。東日本大震災のボラへ行かれた方もいて、なかなか行ける人がいなかったのもあると思う。来年の広島は複数で行つて学び合いたい。



【編集後記】

みなさん、大会お疲れさまでした。朝もテレビを見て、「台風大丈夫かな...」「大会成立するのかな?」と心配しました。しかし、特に遅れることもなく、続々と代議員・オブザーバーの人たちが集まってくるのを見て、感動してしまいました。この台風で三重・奈良・和歌山などは大きな被害に見舞われました。

大会の中にも東日本の震災に関する発言がいくつもありました。被害にあわれた方への支援には、多くの人と手をつなぎ、支え合うことが必要です。押しつけの自助共助ではなく、一人ひとりが自分にできることを考え、一歩踏み出すことができればと思います。相手に寄り添う気持ちを、いつも忘れないようにしたいですね。

ハム太郎